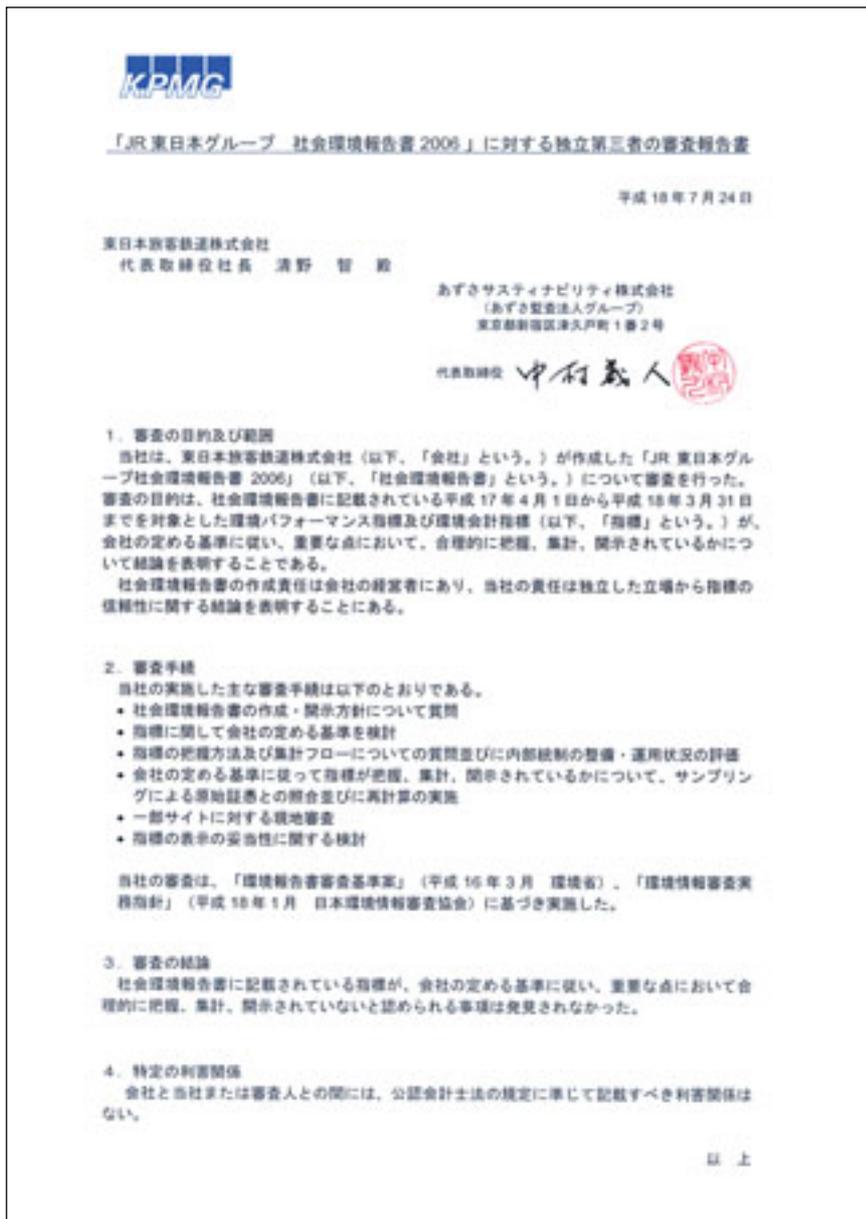


## 第三者審査報告書、今後の展望



あずさ  
サステナビリティ  
株式会社  
アシュアランス  
事業部長  
矢尾 真穂 氏

「安全」に関する方針は、以前から社会環境報告書のトップコミットメントで公表されていましたが、今回は、最初にマネジメント、次に社会、環境、経済という構成に変更され、経営の最優先課題として位置付けられている「安全」について前半部分で多くのページを割き、合わせて定性・定量情報も開示されました。社会的側面の記載を単なる網羅的な社会的パフォーマンス指標の開示ではなく、自社の事業における重要性を十分に認識して開示しようとしている事がわかります。限られたページのなかではまだ十分に説明がなされていない部分もありますが、今後も何が重要であるかを考え、タイムリーに情報を開示される事が期待されます。

また、業種・業態もさまざまなグループ会社の環境活動においては、業種ごとの作業部会などを設けて、それぞれに適った定量的な環境目標を定め、環境保全活動を推進していくことも必要と思われます。さらに、環境情報の集計精度を高めるために、集計フォーマットの工夫に加えて、集計体制の整備も環境保全活動を推進する上で有効ではないかと考えます。

### 今後の展望

2005年度は、国民運動「チーム・マイナス6%」が展開され、多くの方が地球環境問題について考え行動するきっかけを得た年であったのではないかと思います。JR東日本でも、各職場で身近な環境活動に取り組む活動「JR東日本エコ活動」を、八王子支社でスタートしました。各職場の業務や職場生活に根付いた活動となるよう、全社への展開を推進してまいります。

また、グループ全体の取り組みをさらに推進したいと考えています。さまざまな業種の、グループ各社の長をを活かした主体的な活動の充実に向け取り組んでまいります。



経営企画部  
担当部長（環境経営）  
土屋 忠巳